

外国人自動車整備技能実習評価試験の報告について

7月22日（月）に（一社）山梨県自動車整備振興会にて初級学科試験、初級実技試験が行われました。結果は下記の通りです。

実施日	初級学科試験			初級実技試験		
	受験者数	合格者数	合格率（％）	受験者数	合格者数	合格率（％）
7月22日 （月）	4	4	100	4	4	100

= 業界情報 =

整備作業中の事故発生について

自動車整備事業場にて、下記のとおり整備作業中の事故が発生しましたのでお知らせいたしますとともに、会員事業者の皆様には引き続きご注意頂きますようお願いいたします。

記

【事故概要】

・中国管内 【平成31年3月30日（死亡）】

塵芥車のバックカメラの取り替え作業中で、配線をシャシフレームに配策させるため、エンジン及びPTOを作動状態のままリフトアップした車体の下廻りに潜った際、回転しているPTOシャフトのユニバーサルジョイントに作業服の袖口が巻き込まれ死亡した。

【事故概要】

・北陸信越管内【令和元年7月3日 午前10時55分ごろ発生（重症）】

整備作業場に隣接されている板金作業場において、作業員がボデー架装用の鉄板切断機で鉄板を切断する際に、誤って左手指先（中指及び薬指の第一関節）を切断した。

全国の整備相談所に寄せられた整備相談事例 Vol.91

【内容】車検後に右ボールジョイントが脱落し、走行不能になった

- ・車名：乗用車 ・登録年月：平成21年7月 ・走行距離：92,000km
- ・相談日 平成30年12月13日

平成30年7月上旬にA社（会員指定工場）にて、相談者の奥様が立ち合いの元、低価格の短時間車検を実施した。走行距離は8万7,900km。10月下旬に奥様が運転中、右ボールジョイントが脱落し、走行不能となった。走行距離は9万1,700km。

一旦、約3ヶ月前に車検を実施したA社に再入庫したが、事の真相を究明するため、ディーラーのB社（会員指定工場）へ回送し、故障の状態を確認して貰った。B社では担当者から、「車検後約3ヶ月の3,800kmの走行で、ボールジョイントが破損することは考えにくい」と言われた。そのままB社にて故障の修理を実施することとなり、約12万円の費用がかかった（ボールジョイント以外の悪い部分も修理をした）。

そもそもA社が車検時にボールジョイントの異常を見逃していたために起こった不具合ではないかとA社に言ったが、「車検の時には異常は無く、お客様（奥様）の立ち合いの元で車両を見て貰いながら点検車検を実施しているため保証も対象外である」とのこと。つまりA社では車検時に異常は無かったと言われ、B社では車検後に破損することは考えにくいと言われたことになるが、どちらが正しいのか解らない。

真相を究明するため、管轄の運輸支局へ通報し、A社に監査を実施して貰った。数日後に監査の結果、「A社の違法性は確認できなかった」と運輸支局から回答があったが、納得できない。

次に管轄の運輸局へ通報したところ、「支局からは報告を受けている。局へ通報をしてこられても既に支局として回答している結果が変わることはない。整備相談であれば一度管轄の整備振興会へ相談しては？」と言われたため、この度当会へ電話があった。

当会への要望としては、故障についての責任の所在は①車検を実施したA社なのか、②故障した自動車を製造したメーカーなのか、どちらであるか？と言うもの。

【対応】

支局及び局が既に結論を出している。整備相談所として出来ることは何も無いが、今後裁判等に発展し、①もしくは②の責任を証明するには、先ず使用者の走行状態や使用頻度において、故障するはずがないことを証明する必要がある旨を説明した。更に、車検前と車検後で、使用者の走行状態や使用頻度に変化があったのか、また、これまで法定点検は実施しているのか等、使用者の責任についての質問を重ねていくと声のトーンが下がっていった。

以上、故障については使用形態に起因するものが強いことを示唆し、整備相談所での助言には限界がある旨を伝え、整備相談を打ち切ることの了解を得て終了した。

エアコン整備時の注意事項

スズキ株式会社

(1) エアコンコンプレッサ(以下コンプレッサ)新品交換時、(2) エアコン冷媒ガス充填時、(3) エアコンベルト交換及び調整時において、まれに不具合事象が発生する場合があります。エアコンの整備作業を行う際の注意事項について、以下にお知らせします。

■対象機種

全機種

■不具合事象

- (1) コンプレッサ新品交換時
コンプレッサの生産工場からお客様の車両への組付けまでの間に、コンプレッサ新品のプーリに損傷があった場合、プーリに回転不良が発生し、走行不能となる場合があります。
- (2) エアコン冷媒ガス充填時
エアコンシステム内の冷媒量の充填が規定量を超えると、異常圧力による負荷の増大によりコンプレッサが故障し、最悪の場合、走行不能となる場合があります。
- (3) エアコンベルト交換及び調整時
エアコンベルトの張力が基準値を超えると、異常張力による負荷の増大により、コンプレッサが故障し、最悪の場合、走行不能となる場合があります。

■注意事項

- (1) コンプレッサ新品交換時
 - ・ 部品交換前に新品コンプレッサのプーリに輸送による損傷がないことを確認してください。
 - ① プーリの外観に異常がないこと。(傷、塗装剥がれの有無)
 - ② プーリにガタツキがないこと。
 - ③ プーリを時計回りに勢いよく回転させ、ゴリ音がなくスムーズに回転すること。
 - ・ コンプレッサが箱に入った状態又は、箱から取り出したコンプレッサを誤って落下させて衝撃を加えた場合は、外観上異常がなくても使用しないでください。
 - ・ プーリに衝撃が加わらないよう注意してコンプレッサ新品を車両に組付けてください。
- (2) エアコン冷媒ガス充填時
 - ・ エアコン冷媒ガスは規定量を充填することの必要性について、周知徹底をお願いします。
 - ・ サービスマニュアル記載のエアコン冷媒ガス交換方法を遵守し、エアコン冷媒ガスが規定量を満足するよう充填してください。
 - ・ 全自動交換機器使用時においてもエアコン冷媒ガス充填量の入力ミスがないよう注意してください。
 - ・ エアコン冷媒ガス充填後には、必ず冷房性能点検を実施し、エアコンシステムに異常がないことを確認してください。

(3) エアコンベルト交換及び調整時

サービスマニュアル記載の車種別ベルト張力基準値を遵守し、ベルトの張力を調整してください。

= 統 計 =

普通車・軽自動車継続検査件数

6 月

	合 計	指 定					持ち込み				
		保 適		OSS		指定割合(%)	認 証		ユ ー ザ ー		持込割合(%)
		件数	割合(%)	件数	割合(%)		件数	割合(%)	件数	割合(%)	
普通車	14,923	7,309	49.0%	3,137	21.0%	70.0%	3,579	24.0%	898	6.0%	30.0%
昨年同月	14,512	9,060	62.4%	1,149	7.9%	70.3%	3,417	23.5%	886	6.1%	29.7%
昨年同月増減	411	-1,751		1,988			162		12		
軽自動車	11,008	5,940	54.0%	478	4.3%	58.3%	3,644	33.1%	946	8.6%	41.7%
昨年同月	10,889	6,253	57.4%			57.4%	3,750	34.4%	886	8.1%	42.6%
昨年同月増減	119	-313					-106		60		
合 計	25,931	13,249	51.1%	3,615	13.9%	65.0%	7,223	27.9%	1,844	7.1%	35.0%
昨年同月	25,401	15,313	60.3%	1,149		64.8%	7,167	28.2%	1,772	7.0%	35.2%
昨年同月増減	530	-2,064		2,466			56		72		

検査予約無断キャンセル状況(7月分)

7月分のキャンセル多発事業場はありませんでした。ご協力ありがとうございます。
引き続き、予約の申し込みとキャンセルには、十分なご配慮をお願い致します。

なお、業務委員会では、予約情報を共有し安定した予約制度とするため、検査前日の18時以前に予約が取り消された件数を会報に掲載することとしましたのでお知らせいたします。

安定した予約制度となるため、確実な予約を行うようご協力下さい。

7月分のキャンセル件数は次のとおりです。

(台)

普通車	403
軽自動車	1,206
合 計	1,609